

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22 年 9 月 20 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100017		
法人名	(有) ウエルケア		
事業所名	グループホームやすらぎ温品		
所在地	広島市東区温品7丁目13-23 (電話) 082-508-6188		
自己評価作成日	平成22年9月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.hksiks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3490100017&amp;SCD=320">http://www.hksiks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3490100017&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成22年10月20日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>☆ 事業所が特に力を入れている点並びにアピールしたい点は、「新しい介護」上野文規先生・下山名月先生や「介護基礎学」竹内孝仁先生の考え方に基づくケアを実践しているところです。グループ全体でも「生活づくり10か条」という基本理念にのっとり実践目標を掲げ、実践を重ねる事で成果を出しています。加えて「遊بریテーション」や個別外出の機会を継続して設け、個々に合った生活ペースを構築するようスタッフ全体で努力しています。成果創出においてとても良いチームワークがとれているとも思います。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>当事業所は、医療法人好縁会グループの事業所として、閑静な住宅地に開設され約4年を迎える。開設以来、家庭的な雰囲気の中で信頼と安心感を育み、入居者一人ひとりの生活を尊重出来るグループホームを目指し、ホーム長以下全職員が努力され、ご家族の信頼も厚いグループホームとなっている。また、職員研修も事業本部・各事業所一体で取り組まれており、研修では全職員に実践目標を設定し、介護知識や技術の向上を図り、またマイスター試験の実施等にも取り組むことにより、全職員の資質の向上に努められている。ホームの日々の運営に当たっては、その人らしい暮らしの実現・個々の想いの実現化のために、「個別外出」や「ふるさと訪問」等の希望や要望を具現化するために、管理者を中心に全職員が良好なチームワークの下で支援に取り組んでいる。</p>
---

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人グループ内の共通理念と、これを遂行するための実践目標を掲げている。これを共有するための行動指針10か条を毎朝朝礼時参加者全員で復唱し、これに基づいた実践を行っている。更にそれに付随する当事業所運営方針、年間スローガン、各ユニット目標なども定めている。	法人の経営理念を基にして、各ユニット毎に実践目標を掲げ、その実現に向けて全職員が個人目標を設定し、管理者と職員が目標達成状況を確認し合いながら、理念の共有と実践に努められている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の方の協力を得て、GHの畑で作る野菜の収穫は今年で4度目を迎える。収穫の際の入居者様たちの表情はすばらしく、収穫物を日常の食材として、一緒に調理する事で生活の張りにもなっている。また町内会より寄付して頂いた「交通安全」のベストを羽織って、入居者様と散歩兼パトロールをして、地域の登下校の子供さんに声をかける事も定着してきた。	自治会に加入しており、町内会長の理解と協力を得て、「子供110番」や「交通安全」の散歩パトロールなどを、利用者と職員がともに行っている。また、地域の中学校の職場体験の受け入れや、地域の行事に可能な限り協力するなど、地域の一員としての日々の交流にも努力されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	管理者は「認知症アドバイザー」であり、包括支援センター等が主催する認知症サポーター養成講座などに複数回出向き、地域の方に発信している。同時に、見学者も受け入れ、GHの機能や活動を折に触れて紹介説明している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	開所以来、2ヶ月に1度の運営推進会議を欠かしたことがない。各推進委員との連携や信頼も深まり、様々なご協力や、応援、ご意見なども頂戴し、サービス向上に反映させるよう努力をしている。「交通安全ベストの着用」や「こども110番の家」の表示等も推進会議での議論が実を結んだものだ。	地域住民の代表や家族・行政からの出席があり、2ヶ月に1回定期的に開催されている。会議では、事業所からの報告と共に参加者からは意見や、気づき等が多くあり、地域の理解と支援を得る場となっている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	常にそのようにこころがけているつもりである。具体例として、市の高齢福祉課の方から「認知症サポーター養成講座」への協力依頼が入ったため、お引き受けした。	管理者は、「認知症アドバイザー」であり地域包括支援センター・社協主催の「認知症サポーター養成講座」の講師を勤める等している。知識と経験を活かして日頃から市担当者とは、報告相談等を通じ、良好な協力関係が構築されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>取り組んでいる。「身体拘束廃止委員会」の担当スタッフを作り、内外研修に参加してもらったり、定期的に話し合いを持ってもらったりしながら、全体のケアに、実際に反映させている。夜20時30分（遅番終了時間）以降、安全保持の目的のために施錠を行うが、それ以外で（全員外出時を除き）玄関に施錠をした事がない。</p>	<p>「身体拘束廃止委員会」による職員研修も年数回開催され、禁止の対象となる具体的な行為等については職員は正しく理解されている。また、室内閉じ込めも身体拘束の一つと理解され、日々の散歩パトロールなど「個別外出支援」も積極的に行われている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>内外の研修において虐待防止や人権尊重等について学ぶ機会を作り、参加者の研修報告を回覧したりして、周知を図っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現在GHにおいて「後見人制度」を活用している入居者様が複数おられる。後見人様の面会も多く、それらの機会を活用して後見人活動の現状等について、スタッフも話を聞く機会を得ている。ただ今後はもう少し深く全体で知識習得していきたいと思う。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>過去に料金等の改定を行った事がある。その際にも、書面の発送、や質問に関する個別説明、家族会での周知を図った。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>GH開所以来毎年夏・冬年2回の家族会を継続して開催できている。参加家族も多く「質疑応答」の意見や要望をスタッフや家族全体が共有している。またこれをGH運営に反映させるよう努力している。</p>	<p>年2回実施する家族会での意見の集約や、ご家族の来訪時には十分に時間を取って、意向や要望を聞き、運営の改善に反映されている。今年度は満足度調査は出来ていないが、重度化・終末期のあり方や要望について、家族アンケートの実施を検討されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月行われるミーティングにおいて意見交換し、反映させるよう努力している。	毎月末に定例実施する、カンファレンス・ミーティングにおいて、職員全員が意見や提案を出し合って、話し合い運営に反映させている。また、管理者は職員一人ひとりの目標に対し、達成度を確認するための面接等を行い、意見や提案等を聞き取り、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年度当初に記入してもらい、スタッフ各自の目標を定めた「チャレンジシート」を基本に定期的な面談で、個々の話を聞き、目標達成に向けての助言や、意欲向上などにつなげるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	前項目とも連動するが、グループ内で行われる、新人・中堅などを対象にした内部研修に参加し、力量の向上に努めたり、同じくグループ内の「マイスター制度」を活用する事で、結果が確実に、評価、賃金アップにつながる仕組みができている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同じ法人グループ内に複数のGHやDS等があり「学習会」や「研究発表会」などを通じて様々な形で交流している。また必要に応じて、互いのスタッフを、一定期間、他のGHに派遣しての「交換研修」なども行っている		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時には、ご家族や御本人のお話を聞いた上で必ず1ヶ月程度の「暫定ケアプラン」を作成する。このプランでは「GHの生活に慣れて頂く事」を目標の主眼とし、スタッフ全体で、本人に寄り添うケアを目指す。その上で、関係構築を進めていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時には、ご家族や御本人のお話を聞いた上で、必ず1ヶ月程度の「暫定ケアプラン」を作成し、1ヶ月後には、現状報告した上で評価し、協力連携を呼びかけながら、関係構築を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	とにかく「話を聞く」という姿勢をとるようにしている。その上でこちらが支援できる事について提案したり、ご家族の要望をお聞きしたり、様々な可能性について一緒に考えたりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	開所から3年、4年目に入った今期、「共にある」という基本理念を大切にしながら、スタッフ・入居者・ご家族と「全体チーム」を組んでいる感覚を共有できていると思う。入居者様の高齢化、重篤化などの現状もあるが、このまま関係性を深め「擬似家族」を目指したい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	上記に同じ		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	随時面会を受け入れている。その中で御本人の「幼馴染み」、以前の職場の同僚、他府県の友人・縁者が尋ねてきてくれる現状がある。	馴染みの人や場との関係継続支援は大変難しいが、当事業所は新しい試みとして「ふるさと訪問」を企画実行され、入居者・ご家族から大変喜ばれている。今後も可能な限り、継続実施を予定されている。また、ご家族の協力の下で、お墓参りなども行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ユニット内の個々の交流はもとより、大きくは、Aユニット・Bユニットの隔たり無く交流できている。2階Bユニットの入居者が1階Aユニットに降りて、Aユニットの入居者を励ましたり、談笑したりまた逆に1階の入居者が2階に上がってゲームや運動に参加したりする事が、慣例化している。玄関先で皆でお茶を飲んだり日光浴する場面もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居された入居者様のご家族から、お手紙を頂いたり、野菜や、タオルなどのご寄付を頂いたり、GH周辺で、お見かけした際も、先方から気さくに声を掛けて頂ける。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	この事は、現在掲げている、各「ユニット目標」に反映されている。両ユニットとも「その人らしい暮らしの実現」や「個々の想いの実現」を掲げており、御本人の希望に沿う「個別外出」や「ふるさと訪問」を企画し実行する事で「検討」段階ではなく、実際に具現化している。	各ユニットの目標である「その人らしい暮らしの実現」「個々の想いの実現」を念頭に置いて、全職員は入居者の立場に立った対応に心がけ、日々の入居者の表情や細かい変化に気をつけ、目標の実現に向けて努力をされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービスの経過等の把握に努めている。	生活歴の把握や馴染みの物等について、グループ内で作成したアセスメントシートを用いて、しっかり把握するようにしている。ご家族に記入して頂くシートもあり、これを「基本情報」としている。このシートには、症状発症の経緯からこれまでの経過、GHでは本人にどのような生活を送ってもらいたいのか？という事まで記入できるようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	現状把握は日々「生活状況記録」と「個別記録」に細かに記入する事で行っている。特に「個別記録」にはそれぞれの項目ごとに分けて、御本人のあらゆる事柄を記入し、支援計画やモニタリングに有効に活用できる様になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>上記に記入した仕組みを使って、より現状に即した介護計画やモニタリングを行っている。記入物は、説明時、ご家族にも全とお見せし、支援計画やモニタリングの根拠や進行状況は開示している。またモニタリングは評価が5段階になっており、記録根拠と併せて説明し、最後に、ご家族に評価欄へのコメントも頂く。</p>	<p>日々把握する「生活状況記録」と「個別記録」を基にして、5段階のモニタリング評価がなされ、本人の介護計画に反映させており、現状に即した介護計画が作成されている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>上記25の項目に同じ</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>そのように心がけているが、まだまだ取り組みの余地があると感じる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>この設問への回答としては、近隣のスーパーの「買物カート」をGHで借りる事を許可してもらい、専用カートを押して入居者様が買物に行ったり、近くの神社にお参拝に行ったり、公民館に本を借りに行ったりすることがこれに当たるのではないかと思う。どれも不定期だが継続してできている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>近隣の複数の委員と連携の書面を交わしている。GH入居者の大半が近隣地域の方なので、馴染みもあり、GHと医師の関係も良好で、度々TELや書面などを使って相談に乗って頂いたり、受診の際にアドバイス頂いたりしている。</p>	<p>月数回の協力医の往診と、週1～2回の訪問の訪問看護師との連携があり、入居者のいかなる変化にも対応できる体制が確立されている。また、必要に応じては月1～2人協力医下山クリニックに於いて、人間ドック的診断も行われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期的な訪問看護が継続して受けられている。その中で、看護師へ「報・連・相」も密に行えており、TELなどでの連絡でも随時、指示・指導が受けられる状況にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当GHは医療法人グループの一員であり、退院時の医療機関との協働はしっかり行えている。加えて近隣の入院応需の病院（JR病院）とも医療連携の書面を交わしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	上記24の項目に記入したご家族に記入して頂く「基本情報」の記入欄には、ご家族の気持ちとしての「最期に対する想い」を記入する欄も設けている。これを基本に事業所でできることや方針などを説明しながら、普段から情報共有をしながら、一緒に取り組んでいる。	まだ看取りの経験はないが、年毎に重度化が進行し、ご家族からも最後まで看取って欲しいと要望も強い。重度化や終末期対応指針も見直し、今後医師・看護師からのターミナルケアに対する助言や、ご家族の意向などを踏まえ、関係者と共にチームで支援できる体制づくりを検討されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	研修等で身に付けようとしているが、「実践力」においては、経験の浅いスタッフもいるので、今後もっと取り組む必要があると思う。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	近隣地域(すぐ隣)に緊急時連携を約束して下さっている「特別養護老人ホーム」があり非常に心強い。普段から防災やその他全般相談に乗ってもらえる協力的体制もあるが、昼夜問わず全スタッフが災害対応方法を身に付けているか?と言えば万全ではない。今後スキルアップを図る必要がある。	ホーム内での消防訓練は、年2回定期的実施されている。現在スプリンクラーの設置も検討され、早い機会に設置される予定であるが、万全の体制づくりとして、夜間の避難マニュアルの作成と、近隣の住民の方がたとの協力体制の確立を、今以上に運営推進会議等で検討される事を期待します。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	全スタッフがそのように心がけているつもりだが、このことについては「これがベスト」という対応は存在しないと思う。常に自らを律する事を怠らず、入居者個々に接していきたいと考える。	事業所の内外の研修で全職員に対し、プライバシーや尊厳について意識統一が図られている。特に排泄時・入浴時において、言葉づかいに配慮されている。また、ケースファイル等の管理も良く出来ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	全スタッフがそのように心がけているつもりだが、時として、スタッフ本意になりそうになるのではないかと。自己決定をもっと尊重できるスキルを今後スタッフ間で養えるように考えていきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	上記に同じ		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	外出時に女性入居者様に口紅をさしていただいたり、気に入った服や、靴を選んで頂いたりするが、もっと全体に広げていく余地があると感じる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	昔、鮮魚店を営んでおられた方と調理する魚を選びに行ったり、みそ汁に味を付けて頂いたり、皆で餃子を作ったり、夕食の献立は入居者様の希望で決める事を継続しており、準備から片づけまで、食事は活気のあるものになっている。	職員で献立を考え、朝食と昼食については各ユニット共通の献立であるが、夕食については入居者の好みや希望を反映し、各ユニット毎で調理し提供されている。食事は、入居者と職員が同じ料理と一緒に食し、入居者の方は、能力に応じて食事の準備・片付け等出来ることは自ら率先し、お手伝いされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>体調維持のため、水分制限のある方も複数おられるが、スタッフがしっかり摂取量を計算しながら、1日摂取量リミットちょうどの線を、何ヶ月にもわたって維持できるチームワークがある。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>個々に応じた毎日の食後の口腔ケアが全入居者について（体調不良など特別の場合を除き）継続できている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>ケア方向として、スタッフは入居者個々の排泄自立を目指している。排泄パターンをつかみにくい方であっても、カンファレンス等を重ねながら、情報の共有やケア担当を中心にした様々な試みを実践している。</p>	<p>「排泄は自分でしたいもの」との方針の下で、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、職員も負担にならない方法で、入居者にどう自然に排泄してもらうか工夫し、また情報を共有し入居者の個々の排泄の自立支援に努めている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排泄チェックは日々行い、個々に即した排泄リズムの構築を、声かけや薬剤を使って支援している。運動や繊維質の摂取なども普段から心がけており、本人の変化などについても絶えず気づきを情報交換している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入居者様の重篤化等の理由によって、100%希望に沿っていない現状であるが、個々に応じた安楽な入浴方法については、絶えずスタッフ間で考慮し、実践している。</p>	<p>入居者の習慣や希望に多様性があり、それを活かしながら、本人や家族の安心と満足、スムーズで安全な入浴、体調の改善、入浴場面での本人の力の発揮につなげている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している。	そのように出来るよう努力している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	服薬についての重要性は全スタ ッフが認識している。服薬量の 増加・減少、目的などについては 、変化のあった都度、把握に 努めている。また誤配や服薬ミ スを防ぐため服薬前に、日にち と名前を指さし、声だし確認し てから服用して頂くようにして いる。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	上記アセスメントにより、本人 趣向や楽しみを把握し、日々の ゲームや散歩による気分転換の 際に、交代で主役が勤められる よう配慮しながら支援してい る。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	頻度として多くはないが出来る 限り希望に沿い、機会を提供す る支援を行っている。項目23 と同様にある。	日常的な外出支援に限らず、本 人の思いに添って、墓参りや懐 かしい場所、行きたい場所へ の外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように 支援している。	基本的に当ホームでは個人のお 金は預かっていないが、本人が 望む購入物で希望に沿う物があ れば、ご家族に相談した上で 「個人立替」と言う形を取り、 一緒に購入に向かう。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族や親類から本人様あてのTELがあった際には、ご本人におつなぎしている。手紙についても、ご返事を本人とスタッフで書けるよう取り組んでいる。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関やリビング、廊下に花や絵を飾ったり、季節の物や飾り付けをしたりして出来る限り工夫している	玄関には、入居者の方やご家族の方が描かれた絵等を掲げ、廊下には外出時の楽しかった写真、食卓には季節のお花も飾られ、居心地良く過ごせる共用空間作りに努められている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	出来る限り工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内物品の配置や、家具、などにひとつとして同じものはなく、本人好みや家族の希望、また馴染みのものを使っている。	居室は、今まで生活された環境に近い居室に暮らせるよう、使い慣れた馴染みの物を持ち込まれ、楽しく暮らせる居室づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	運動のための手すりをGH内に独自に付けたり、トイレや入浴室、非常口のノブにそれぞれに応じた色分けをしたり、自立歩行者の多いBユニットについては、廊下の手すりに白いテープを巻いて夜間の目印にしたりしている。		

V アウトカム項目      Aユニット評価分      ( 評価者 ユニットリーダー 藤井 美実 )			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V アウトカム項目      Bユニット評価分      ( 評価者 ユニットリーダー 中村 未来 )			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームやすらぎ温品

作成日 平成 22 年 12 月 7 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議のメンバーが固定化しがちである。	会議内容をこちらからの報告のみではなく、地域との双方向の情報交換の場にしたい。	入居者様の取り組み成果の展示等を足がかりに近隣の公民館代表者等を推進会議に巻き込みより深い地域密着を目指す。	3ヵ月
2	35	避難マニュアルの工夫と職員への徹底・地域との協力体制の強化	わかりやすいマニュアル作り 職員への回覧、 近隣との連携強化	「GH平面図」に避難経路を具体的に→で示し掲示する。定期回覧、近隣の特養「温品荘」との連携を強化する	3ヵ月
3	49	個別外出や散歩についてできるだけ実施しているつもりだが、ご家族に現状がうまく伝わっていない。	入居者様の外出機会を充実させると共に家族にアピールする機会を増やす	近隣への散歩機会を増やし地域住民との交流機会を増やす。その場면을写真に撮りスライド等にまとめてご家族に披露する機会を増やす	3ヵ月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。